
虚無

後藤修治

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

虚無

【Nコード】

N7488C

【作者名】

後藤修治

【あらすじ】

何も無く、何も無い。書きなぐり。

自分が人として間違っていると気づき始めたのは保育園のときだった。

僕はそのときから虐められていた。僕は何もしていないのに、いつも何か嫌がらせをやられた。

僕は何もしていないのに、なぜ疎外されなければならないのだろう。僕が何をしたっていうのだろう。

でも、やはり今考えると自分も悪いところがいっぱいあるのだ。でも、それは。また違う話。

そのとき僕は逆上してカッターナイフで僕をのけ者にしてきたやつを、力のままに切りつけた。

最初の歪みはその事件だった。

それから、もういつも僕はオカシイ人間になってしまった。

小学校でも、中学校でも、高校でも・・・いつになっても。

社会不適合者。

結論はこれだ。僕は何をしても駄目なのだ。

何度も願った。

自分が成功するという夢を。自分は特別幸せな人間にはなれなくても、人並みの幸せを感じられる人になれることを僕は一生懸命願ったはず。

でも、現実はいくらも変わらない。何も変わらない。

僕は、いつまでたっても独り。孤独のまま自分を貫いていく。

良い意味でなく、悪い意味でもなく。

そもそも、僕には良いことも悪いことも分からないのだ。

そんな普通の人間としての機能は既に欠如しているのだよ。

中学のとき深夜に出歩くことを覚えた。異性というのがどういったものなのか少しだけかじった。

僕に優しくしてくれる人もいた。

こんな情けなく、取り柄もない。趣味も無い。金もない。容姿も良くない。

そんな完全なダメ人間な僕を受け入れてくれる人もいた。そのときは、本当に嬉しかったよ。彼女は今、何しているのだろう。

幸せになつてくれていると嬉しい。

本当に何気ない日常だった。僕はいつも引きこもりがちなので、一緒に遠くに行くなんてことは怖くて出来なかつたし、彼女を幸せにすることもまったく出来なかつたと思う。

それでも、一緒にいてくれた。

一緒に散歩したり、一緒にただただのほほんとしていたり。そんな日常が楽しくて、愛しくて仕方が無かつた。

でも、別れは来てしまふ。そんなこと、もうこれまで何回体験してきたか分からない。

でも、僕の場合はほとんど望んで離れたかつた。

今回は違う。彼女と一緒に居たいと心から思った。

僕のことを受け入れてくれる人なんてきつとこれで最初で最後なのだ。

だから、離れたくなかつた。そんな僕の粗雑な心を理解してくれた彼女は今、うまくやっているのだろうか。

結婚しているのだろうか。幸せな家庭を気づいているのだろうか。もしそうなら少し悲しいけれど、ほとんど嬉しいんだよ。本当に高校に入ってから異性の怖さを知った。

今までは同性にしか虐められてこなかつたけれど、今回は異性に虐められるようになった。

キモイ・・・容姿のこと、それ以外のこと卑下するところはどこまでもあつたらしい。

でも、それは簡単に終わった。

簡単に復讐するだけで終わった。

復讐の方法は内緒だよ。

それからほとんど感情をなくした。

やりたいこと、やらなければならぬこと。本当に何もかもやらなかった。

でも、社会人になってからは仕事だけはきちんとした。

家族は特別好きという訳ではないけれど。やはり、自分のことだけは自分でやっていかなければならないと思っっているからだ。

僕は異様にまじめなので、会社での僕の評判はまあまあ悪くはないようだ。

そう僕は何も無いのだ。

特徴も、人格も、欲望も、絶望も、失望も。

もう何も無い。

僕には小さい頃いっぱい夢があったはずなのになぜだろう。なぜ僕はこんな無気力になってしまったのだろう。

誰のせい？

もちろん。僕のせいだよ。

責任取りたいけれど、責任の取りようが無いよ。

本当にバカだね。僕って。

僕は立派な人間になりたいわけではないよ。

僕は人の上に立ちたいわけでもないんだ。

僕は寂しいんだよ。

みんなみたいに。友達が居て、恋人が居て、温かい家族があつて、少しの給料でももらつて幸せにひっそりと暮らしたいだけなんだ。

本当なんだよ。

でも、もう無理だよ。

だって変わらなければいけないのは僕のほうなのに。

僕はいつだって世界のほうを批判してしまうのだから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7488c/>

虚無

2011年1月2日02時47分発行